

縦×横
3.6メートル

巨大糸掛け曼荼羅

製作過程

令和5年5月～7月にかけて行った5回のワークショップで子どもたちが製作しました。

基板は、8枚のコンパネを組み合わせています。アルミ材を使った補強、塗装の作業はすべて青森工業高等学校建築科・機械科の生徒さんたちが行ってくれました。

ワークショップでは、下絵に基づいて、ビス(ねじ)を1,400本ほど打ち込む作業からスタート。

その後、ビスに糸を掛けていきました。色合いは、参加した子どもたちが話し合っ決めてました。



見本とした作品



下絵

《ワークショップ参加者》

藤本 芽依 さん
藤本 碧依 さん
田平 風花 さん
舘山 向日葵 さん
氏家 楓人 さん

《まなびサポーター》

小野月星 さん
二本柳春南 さん

《協力》

青森県立青森工業高等学校建築科及び機械科生徒のみなさん

第1回ワークショップ

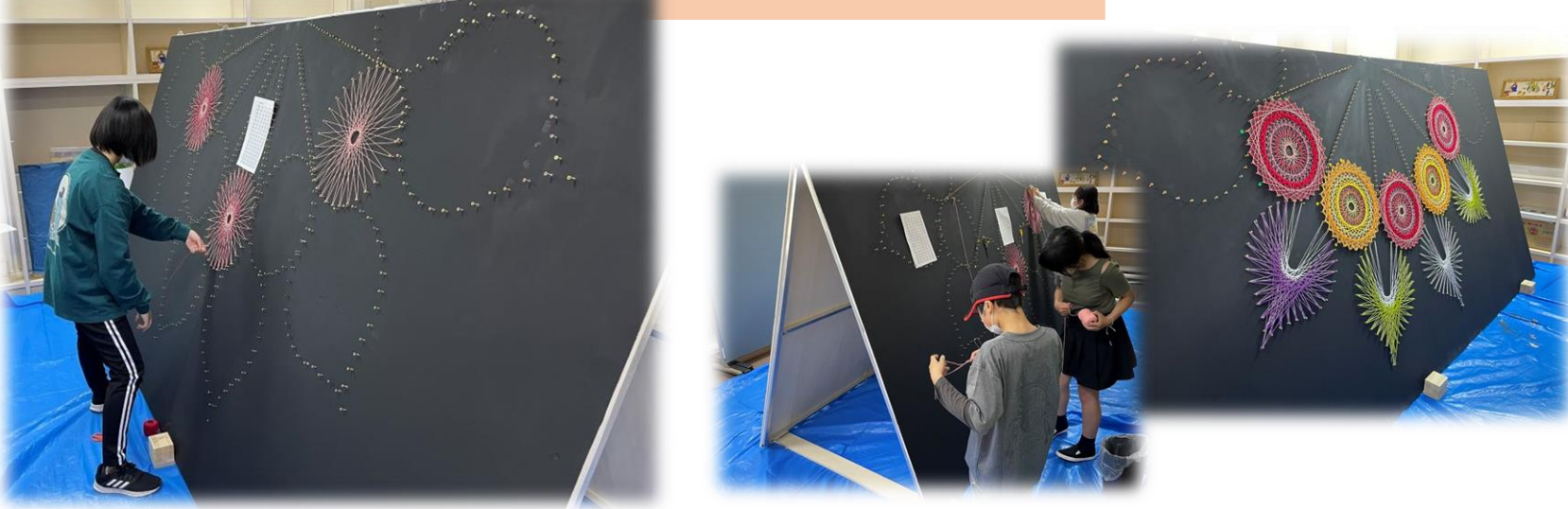
R5.5.13



「巨大」なのを作る前に、通常サイズで糸の掛け方の練習をしました。

第3回ワークショップ

R5.5.27



いよいよ糸掛け開始です。

この糸掛け曼荼羅のデザインは、3つのパーツからなります。まずは「円部分」に”循環掛け”をしました。ここは、12個の円を赤系と黄系で交互に配置することにしました。次に外側の「花びら部分」。ここは”クロス掛け”を施しますが、色合いを決めるのに難航し、この回はここで終了となりました。

第4回ワークショップ

R5.6.24



糸掛け2回目。

「花びら部分」の配色も決まり、紫系の糸でまとめていきました。そして、最後の「センター部分」は青系とし、ここもクロス掛けでさくさく糸を掛けていきました。この日で真ん中の結合部に係る部分以外はすべて糸掛けが終了しました。

この日はRABの取材が入り、夜の東奥日報ニュースで早速放映されました。インタビューを受けたふたり、いずれも的を射た素晴らしい応答でしたね！



第2回ワークショップ

R5.5.20



基板に下絵を張り付け、その上から印にしたがってビスをドリルで打ち込んでいきました。青森工業高校の生徒さんがドリルの使い方を丁寧に教えてくれたので、作業がスムーズに進みました。

中心部分のビス打ちは、2つに分けた基板を背中合わせに立て掛けて行いました。これは工業高校の小枝善明先生のナイスアイデアです。この形にすることで、糸掛けもずいぶんやりやすくなりました。

ビスをすべて打ち終わったところで、下絵をびりびりはぎ取りました。



※この後、工業高校の生徒さんがわざわざ来所して、塗装のはげたところなどを塗り直してくれました。

第5回ワークショップ

R5.7.1

糸掛け3回目。

この日も工業高校の生徒さんたちが手伝いに来てくれました。四隅の部分に、新たなデザインを加えることにし、まずはそのビス打ちから始めました。



その後、結合部に係る糸掛けをするために、2つ折りにしていた基板を解いて、半分ずつロビーに移動し、平面にして再び結合させました。全体像を目の当たりにしたのは、この時が初めてでした。

四隅の新たに加えた部分、結合部にかかっていた「円部分」と「センター部分」のそれぞれ2か所ずつを仕上げ、巨大糸掛け曼荼羅、ついに完成です！

